

## 特別講演 2

### 「内科診療における救急のピットフォール」

名古屋披済会病院救命救急センター 副救命救急センター長  
岩田 充永 先生

内科救急の難しさの要因の一つに「一見軽症そうに見えて実は重症であった…」という症例に遭遇したときに適切に対応することの難しさが挙げられると思います。総合病院の救急外来では、このような「隠れた重症」と呼ばれる疾患に遭遇する割合は300～500人の割合であることが報告されており、月5回の当直で1回の当直で10人の患者を診察すると1年に1～2回はそのような症例に遭遇する計算になります。この「隠れた重症」事例は、医事紛争のハイリスクとなりストレスが大きいものですが、過去の事例を検討してみると、多くの医師が判断を誤る時には一定のパターンがあると考えます。本講演では内科救急で我々が陥りやすいパターンを紹介し、皆様と意見交換ができればと考えております。